

ISMS基本方針

制定日：2006年10月2日

改定日：2010年09月3日

当社は、20世紀後半から21世紀の現代の技術革新の驚異的に進むIT業界に於いて技術競争にも圧倒的な優位性を保ちながらIT技術の究極の利活用による中小企業の経営の悩みにコンピュータを駆使して解決する企業のドクターとして理想的なシステムインテグレーション型経営の確立及び顧客満足度無限大を追求しながら経営コンセプト支援的に顧客の経営改善向上または改革に資する社会貢献を果たすことを約束します。

また、当社の社是に謳う「真価の為に、深化し、進化しつづける」の精神性に照らし、未来永劫当社の情報セキュリティマネジメントシステム（以下「ISMS」と言う）が形骸化せず、会社経営に資する、経営コンセプトや社風形成のテーマなどに準拠し時間の経過や経営条件の変化に柔軟に対応可能な理想的な対策とするためにも、社内外に対するPRや経済性や合理性を兼ねてリエンジニアリング的に推進します。

【目的】

当社は、会社経営に於ける業務遂行上必要不可欠な情報資産の消失、盗難、不正使用、漏洩などを防止する基本対策や個別契約毎に条件に最適な予防策を講じ、機密性や完全性や可用性を継続的に確保し、最大限社会的経営責任を果たすと共に利害関係者の信頼に応えます。

【適用範囲】

当社の組織図に存在する全ての部署及び業務や作業をISMSの適用範囲とします。

【遂行体制と責任】

経営者は、『ISMS基本方針』に基づく情報セキュリティ規定・手順書類及びセキュリティ要求事項の審議・承認、またその要求事項に対する対策の実施状況の監視・評価等を確認するためにISMS対策プロジェクトを設置し、当社の経営水準に適合する機密性を最大限重視したリスクアセスメント方法や受容基準や受容可能レベルを決定します。

また、ISMSの円滑な推進を図るために情報保護管理責任者と部署毎に情報保護担当者を配置し、関連する法令やルールと整合性を取りながら柔軟かつ合理的にISMSの推進と継続的改善に努めます。

【情報資産の特定及び分類】

当社は、ISMSをより最適に運用するために情報保護管理責任者及び情報保護担当者が経営者と協議しながら適用範囲に存在する情報資産を特定し、情報資産の脅威と脆弱性を識別するなど対策が必要な事項を可能な限り抽出し分類するために、リスクアセスメントに関するトレーサビリティなアプローチ体系を確立します。

リスクアセスメントの結果、ISMS文書に基づき、合理的で適切な管理策の策定、リスク対応計画書、実施、監視、評価等を通じてリスクアセスメント方法やこれらの基準・水準を経営基盤や環境の変化などに応じて見直します。

【目標管理】

理想的なISMSの運用を念頭に置き、定期的に運用状況を測定・分析し将来に向けて目的・目標を検討する材料を得るために年度毎に具体的な数値目標と推奨目標を掲げ実質的に管理します。

【法令の遵守】

当社の事業活動を推進するにあたり、経営方針にも掲げるコンプライアンス経営の実現と併せて、当社の経営環境に存在する全ての関係法令及び当社内で同意された社内ルールを遵守し、整合性に欠ける点や旧式化し現実に適さない矛盾を生ずるところに対策しながら健全な情報保護を心掛けます。

【個人情報保護】

当社が取り扱う個人情報については、個人情報保護法に基づき「プライバシーマーク」に準拠し、その利用目的の特定と公表・通知、法令と利用目的に限定した取得・利用・提供に努めます。

【知的財産権保護】

取引先と締結する「基本契約書」に謳われる当該条項に準拠し、知的財産権及びその他の情報資産に係る権利全般の保護に努めます。

【社会的責任管理】

当社の全従業員のみならず顧客や資本及び業務提携先など利害関係者に対し、直接的間接的にISMSに関する様々な情報を可能な限り迅速かつ正確に公開し、適宜更新しながら、専門的な情報利活用と啓発活動による意識の改善向上及び改革を図り、情報保護に取り組む組織による相乗効果・付加価値に期待し、IT業界全体に貢献します。

【監査】

当社のISMSの適用範囲に、関連法令遵守・リスク対策・目標管理の実施状況などが適正に運用され期待された効果が生じているかを確認するために、年度毎に定期的に内部監査員によるチームを編成し内部監査を実施します。

情報保護管理責任者は、調査分析を加えながら監査結果を纏め改善案などと併せて経営者に報告し、経営環境の変化などに適合させながら有効性や妥当性について評価します。

【従業員の義務】

当社の従業員は、『ISMS基本方針』を尊重し、ISMSに関する文書全体を理解・準拠しつつ維持・改善に努め、関連文書に定めるルールに違反した場合には当社の就業規則に則り懲戒処分を適用します。

【教育】

経営者の支持の元にISMS教育担当が主体性を持って、当社の役員及び従業員に対し、ISMSに関する啓蒙と理解そして理想的な対策を実現するために究極のIT及びマネジメントスキルアップに関する基礎から応用編に至る迄の教育・研修・訓練を職位職務毎に計画的に実施します。

【事業継続管理】

会社経営を営む経営責任および義務として、あらゆる想定内外の天変地異や人的災害など緊急事態に対し冷静かつ迅速に最適な対策を講ずるために別途作成した「消防計画」「防災マニュアル」と併せてISMSを運用し可能な限り事業の継続を図ります。

株式会社シンカーミクセル

代表取締役 社長

桜井 孝志